

青森のBORO——田中忠三郎コレクション——

なか ちゅう けい こ
環境ジャーナリスト・環境カウンセラー 中村 恵子

1 表紙の写真—田中忠三郎氏紹介

表紙の写真は、田中忠三郎コレクションである。写真右は、幾世代にわたり布を接いだ着物。左は、古手木綿を接いだシャツである。民俗民



写真1 田中忠三郎氏

具研究家、著述家の田中氏は、1933年、青森県下北郡川内町（現むつ市）にお生まれになった（写真1）。20代30代にかけ、青森県北部で縄文遺跡の発掘。縄文のコレクション1万点は国立民族学博物館へ、アイヌ資料は国立民俗学博物館へ収蔵されている。

30代（1965年ころ）から約40年間、民俗、民具収集、調査、古老からの聞き取り調査および江戸、明治、大正、昭和の衣食住にかかわる生活道具を収集する。表紙の2枚は、‘衣’の収集—青森のBORO—といわれるものの一部である。コレクション2万点のうち、津軽・南部刺子786点は、国の重要有形民俗文化財になる。また、紡織機、麻布520点は、青森県有形民俗文化財である。

2 BORO 収集の契機—冬の縄文遺跡現場遺跡現場

幼少の田中氏は、戦闘機の燃料にする油を松の根から採取するために、松の根堀をする母親を手伝い、石器や甕の破片をみつけ、宝物にしていた。しだいに青森で多く出土する縄文時代の遺物に興味を増し、自

ら発掘して縄文人の生活を明らかにしようと決意された。青森の冬は厳しい。凍える冬の発掘現場でこんなに美しい縄文土器を作る人たちは、どのようにして、この寒さから身を守っていたのだろう、その後の人たちの衣は、どのようなものであったのだろうと関心を高め、青森各地を回りあらゆる生活道具、衣の収集を始めた。

3 出会い—美しさに涙がこぼれた

畑で働いているおばあさん達に声をかけ、話を聞いて回った。「炉辺で、麻などの植物繊維から糸を紡ぎ、その糸を機で織り家族の着物を作った。」だから、一枚一枚がいとおいしい。「一寸四方の布があったら大事にせよ」といわれてと、風呂敷につつんだ「ボロ接ぎ布」（写真2）を見せるおばあさん。そして、幾世代にもわたり麻布を継ぎはぎ重ねた着物、貴重な木綿糸で刺し子をした着物や、布を裂いて織り直した“裂き織り”夜着—ドンジャ（家族でくるまって寝る）、ボドコ（お産時使用布）を見せられたとき、「その思いの美しさに涙がこぼれた」と田中氏は言う。

4 収集—冬の寒さを生き抜く工夫が美へ昇華

田中氏収集の江戸時代から昭和初めまでの古着は、アートとしても国内外で評価されている。寒い青森では木綿が育たなかった。布地は麻である（写真3）。麻糸を紡ぎ機で織る。防虫おしゃれのために藍の濃淡

で染める（写真4）。これらは手がかかる。多忙な農作業の合間にするのである。破れたら布を継ぎ合わせる。防寒のために、麻布を重ねたり、麻屑を入れたりしていた。木綿糸が手に入るようになってからは、木綿糸で継ぎをし、それが津軽刺し子、こぎん刺繍、南部菱刺繍へと発展した。娘は、5、6歳になると針を持たされ、刺繍ができるようにされた。嫁ぐときは夫と自分の刺繍入りの手作り着物を風呂敷に包んでいったという。更に形を成さなくなった布は、“裂き織り”として美しい布に蘇り、最後は紐状にして頭に巻き、先に火をつけ虫除けとし、灰は肥料とした（写真5、6）。

5 田中コレクションが語るもの—命をつないだBORO

衣類が消耗品となっている現在と、対極の生活から見えてくるものを田中氏は「厳しい自然の中で生き延びていくには、体温を維持することが必要不可欠である。真冬でも人間は食料なしでも数日生きていけるが、衣服なしでは一日たりとも生

きていけない」「この地に住んだ人は決して布や衣類を粗末にしなかった。先祖が味わってきた寒さに対する恐怖があったからではないか。その恐怖から身を守ってくれたのが衣である¹⁾。」と語る。“命をつないだBORO”を慈しむ人の優しい心が見えるという。

次世代にその生活文化が伝わらないことを恐れた田中氏は、くらしの中にあつた知恵や想いを、民具や衣といった生活道具を通して語らせたかった。“BORO”収集は、体が芯から冷える極寒の縄文遺跡を掘りながら、現在まで“命をつないだ衣”に思いを致した田中氏でなければできない仕事であった。

【参考】

東京上野美術館等で「田中忠三郎コレクション『BORO』」展が行われ、国内外のデザイン関係者から注目された。1983年紺綬褒章受賞。田中氏は、現在、浅草アミューズミュージアム名誉館長。同館で一青森のBORO—を見ることができる。

※写真：2、3、4、5 田中忠三郎氏提供
写真：1、6 中村恵子撮影



写真2



写真3



写真5 古手布を燃やして作られた縄、紐



写真4

写真2 接ぎ布と作成されたタビ
写真3 麻糸と麻玉
写真4 藍草と藍玉

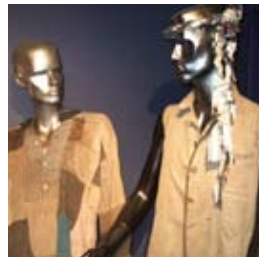


写真6 ボロ紐虫除け

参考文献

- 1) 田中忠三郎：物には心がある —消えゆく生活道具と作り手の思いに魅せられた人生—、アミューズエデュテインメント（2009）
- 2) 田中忠三郎：田中コレクション（監）—サキオリから裂織へ—（2007）